

風土記の丘の花だより³¹¹

今、そしてこれから見られる植物(2026年3月7日)

早いもので、もう弥生三月ですね。

風土記の丘にもたくさんの花が咲き始めました。お散歩が楽しい季節になりました。春の花をどんどん紹介していくことにしましょう。



万葉植物園の前の道を通り、工事現場を右に見ながらカーブする辺りでアセビの花が見頃を迎えています。これからもっと花数がふえ、ますますきれいになっていくことでしょう。花の色や、咲き方が違うものもあり、ここには何品種か植えられているようです。昔は「あしび」と呼び万葉集にも詠われています。「吾背子に 吾が恋ひらくは奥山の あしびの花の 今盛りなり」アセビの花が盛り上がって咲くように、あなたへの思いが募っています。というような意味でしょうか。



ベンチから修復古墳を見下ろすと、その先の左に黄色く見える所があります。サンシュユの花が満開を迎えているのです。大きく目立つ花ではありませんが、たくさんの花が枝いっぱいにはさくので、満開になると見事です。この木は江戸時代に中国から伝わったとされています。写真の左下の赤いのは、しぼんでいます。去年の秋に実った実です。春はこがね色、秋は赤さんご色、それで、はるこがね やあきさんご とも呼ばれます。



ハクモクレンが咲き始めた花木園の中央あたりに、ピンク色の花が咲いています。モモの一種です。写真でもわかるように、モモの花には、右下の写真のウメと比べるとごく短い花柄があるのが分かります。ここに植えられている



何本かのモモはおいしい実のなるモモではなく、花を楽しむための品種のようです。こんなモモはハナモモと呼ばれます。いくつかの木で花を見比べて見てください。



万葉植物園などで、シキミの花が咲いています。薄黄色の細長い花びらが10枚ほどあります。全体に毒があり、特に実は猛毒だそうです。それで「悪しき実」の「あ」が取れて「シキミ」になったと言われています。この写真は毛虫が花びらを食べているところです。「蓼食う虫も好き好き」ではありませんが、こんな花でも食べる虫がいるのですね。初めて見たので思わず写真を撮りました。みなさんは花を觀賞するだけにして、決して口になさらないでくださいね。

松下